

大東文化大学創設90周年記念

アジア芸能の夕べ

— 魂の響き —



2013年10月12日(土)

開場 14:00 開演 15:00 終演 17:30(予定)

大東文化大学東松山キャンパス60周年記念講堂



主催 / 大東文化大学国際関係学部 後援 / 東松山市・東松山市国際交流協会

ごあいさつ

国際関係学部長

新納 豊



本日は「アジア芸能の夕べ」にご来場いただきありがとうございます。第5回となります今年の「アジア芸能の夕べ」は、本学の創立90周年を記念して行われるものです。

大東文化大学は第44帝国議会(1921年)において可決された「漢学振興二関スル建議案」に基づいて1923(大正12)年「大東文化学院」として創立されました。「漢学の振興」「東西文化の融合」という建学の精神は今日「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」と読み替えられ、アジアに軸足を置いた教育の指針として受け継がれております。

国際関係学部の教育は2006年度に「アジア理解教育の総合的取組」として文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(2006～2008年度)に採択され、アジア言語教材の開発、海外連携の拡大、地域連携事業の強化等を進めてまいりました。「アジア芸能の夕べ」もアジア各地の芸能や文化の紹介を通じて地域社会の国際化に寄与する地域連携事業として2007年に第1回を開催し、今日まで継続してまいりました。

東松山キャンパスでは2010年10月よりキャンパス整備事業を進めており、近隣にお住まいの皆様には工事車両の出入りなどでご迷惑をおかけしております。このため昨年は「アジア芸能の夕べ」は中止させていただきました。本年5月に2期工事を終え、最終の3期工事(2014年11月完工予定)に着工したところであります。本日はご希望の方々にキャンパスツアーをセットさせていただきました。いかがだったでしょうか。

さて本日の公演では、繊細なサウン・ガウ(ビルマの豎琴)の音色に乗せて優美なミャンマーの古典音楽と舞踊を、そしてリズムカルで迫力のある韓国のサムルノリをご鑑賞いただきます。ミャンマーは民主化の進展とともに近年日本との関係が多方面で進んでいる国ですが、その文化や芸能の紹介は始まったばかりと言えるでしょう。韓国のサムルノリは「アジア芸能の夕べ」でも2回目のご紹介となります。どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみください。

Program

14:00 ◆ 開場
キャンパス・ツアー

15:00 ◆ 開演
学部長 あいさつ

◆ 第一部

ミャンマーの古典音楽と舞踊 「黄金の国からの贈り物」

1. 豎琴と歌「ミンガラ・スタウン」(吉祥のお祈り)
2. 舞踊「サンドチャイン」(お時間)
3. 舞踊「レッ・アラツ」(手の美しさ)
4. 豎琴ソロ「マヨウナイベダ」
(飽きのこない豎琴のメロディー)
5. 豎琴と歌「モウ」(雨)
6. 舞踊「マガイ」
7. 舞踊「セイツチャイ・アカ」(自由な踊り)
8. 舞踊「エイジンウウ」(きれいなお水)

◆ 休憩

◆ 第二部

韓国 サムルノリ

1. 「삼도 설장고」(サムド ソルチャンゴ)
2. 「삼도 사물놀이」(サムド サムルノリ)
3. 「판굿」(パンクツ)

司会進行: 関谷元子

舞台監督: 中村 卓

照明: 土屋弘志

音響: 正能宏之



ミャンマーの古典音楽と舞踊「黄金の国からの贈り物」

出演者紹介

タン・ティヤー・テイ・シン



「タン」「ティヤー」「テイ」「シン」とは、赤とんぼの羽の音を模したとされる4つの音のことで、ミャンマーの古典音楽を学ぶ人は最初にこの4つの音をタイトルに持つ歌を習う。日本で「ビルマの竖琴」として有名な楽器、サウン・ガウの演奏家として活躍中のス・ザ・ザを中心に結成された、ミャンマーの古典音楽と舞踊のグループ。



ス・ザ・ザ(竖琴)

ミャンマー出身。9歳の時から、サウン・ガウと呼ばれるミャンマーの竖琴を学ぶ。1996年にラオスで行われたアセアン・ユース・キャンプにミャンマーの若手演奏家の一人として参加。1997年にヤンゴンの国立文化芸術大学の音楽学部に入學。学部在籍中の1994年、1996年、1998年、2000年に、ミャンマー伝統音楽コンクールの竖琴部門で最優秀賞を受賞。2001年に学部卒業後、音楽講師として同大学に勤務。2006年にインドのニュー・デリーで行われた「マジック・ストリング・エキシビジョン」にサウン・ガウの演奏の映像資料を出品。2008年に文部科学省奨学生として日本に來日し、現在、東京藝術大学音楽研究科博士課程に在籍し、ミャンマー音楽の研究も行っている。



タン・タイ(歌手)

1965年、ミャンマーのラングーン市に生まれる。1986年にラングーン大学を卒業後、公務員として働きながら作詞作曲家として活動。1991年に來日し、2000年からはフリーのグラフィックデザイナー、翻訳・通訳者として活動。2005年からNHK国際放送局ラジオジャパンのビルマ語放送のアナウンサーを勤める。2013年有限会社アン企画の代表に就任し、翻訳・通訳及び出版などの業務を行うかわら、歌手としてス・ザ・ザと共に活動する。



タン・ゾ(舞踊)

ミャンマー古典舞踊の最も有名な教育機関であるバン・タヤ音楽舞踊学院を卒業後、ミャンマーでプロの舞踊家として活躍。1992年に來日後、日本でもミャンマー舞踊の個人レッスンや集団レッスンを行いながら、コンサート活動を続けている。ミャンマー舞踊家のネピット・ティン・ウン氏、ウ・タン・アウン氏とウ・チョ・スエイ氏の各氏に師事。



キン・モウ・モウ(舞踊)

ミャンマー出身、日本人と結婚して1997年に來日。5歳よりミャンマー舞踊を始め、ミャンマーの新年の水かけ祭の舞踊大会やミャンマー国営テレビの舞踊番組に出演。來日後は、留学生への舞踊指導を通じて、三笠宮崇仁親王殿下に舞踊をご鑑賞いただくという栄誉を賜った。板橋区の国際交流に協力して小中学校や大学の文化祭、区役所のイベントなどで舞踊とともに文化を紹介し、ミャンマーと日本の文化交流活動に尽力している。

キン・テ・モン(舞踊)

イ・イ・カイン(舞踊)

演目解説

「黄金の国からの贈り物」

ミャンマーは東南アジアの国ですが、東はタイ、西はインド、北は中国に隣接し、文化的に多様な要素が入り交じっています。今日の古典音楽や舞踊も隣接する国々との長期にわたる交流を経て成立したものです。ミャンマーは人口の9割が仏教徒で、伝統芸能には仏教行事とかかわりの深いものが多く存在します。竹山道雄の代表的児童文学『ビルマの竪琴』のなかで、出家した水島上等兵が演奏する楽器として日本でもよく知られるサウン・ガウは古典音楽の代表的楽器として日本でも有名ですが、出家僧は厳しい戒律に従って音楽演奏はしません。



1. 竪琴と歌「ミンガラ・スタウン」(吉祥のお祈り)

竪琴:ス・ザ・ザ 歌:タン・タイ

「ミンガラ」は日本語で「おめでとう」という意味、「スタウン」は「祈る」という意味です。「今日コンサートにいらっしゃる皆様に、幸せが訪れますように」という願いを込めて演奏します。

2. 舞踊「サンドチャイン」(お時間)

舞踊:タン・ゾ

ミャンマー人なら誰でも知っているとても有名な曲です。ミャンマーのラジオ局から、昼12時と午後4時に「サンドチャイン」が流れてきますが、今日は午後4時に流れる曲です。サイン・ワインと呼ばれる伝統的な太鼓を中心とした打楽器オーケストラによって演奏される楽しい音楽にあわせて踊ります。

3. 舞踊「レッ・アラツ」(手の美しさ)

舞踊:キン・モウ・モウ

ミャンマー語で「レッ」というのは「手」、「アラツ」というのは「美しさ」という意味です。手の強さと美しさを表現した踊りです。

4. 竪琴ソロ「マヨウナイベダ」(飽きのこない竪琴のメロディー)

竪琴:ス・ザ・ザ

ミャンマーで竪琴はサウン・ガウと呼ばれ、楽器の王様とされています。楽器の形は、曲がった棹から共鳴箱にむかって弦が張られていることが特徴です。この曲は、20世紀を代表する竪琴奏者のアリンガチョーザア・ウ・バ・タンの作曲で、いつまでも飽きのこない優美な旋律を紡ぎだすものです。

5. 竪琴と歌「モウ」(雨)

竪琴:ス・ザ・ザ 歌:タン・タイ

「モウ」は日本語で「雨」の意味です。雨の季節のときに、寒くて寂しい気持ちになって、自分の彼女に会いたいと思う……そんなロマンティックで切ない気持ちを表現した歌です。

6. 舞踊「マガイ」

舞踊:タン・ゾ

「マガイ」は伝統的なミャンマーの民族衣装の名前です。ブツダに祈る精霊が着る衣装と考えられています。

7. 舞踊「セITCHAY・アカ」(自由な踊り)

舞踊:キン・モウ・モウ

「セITCHAY」とは「自由」、「アカ」は「踊り」という意味です。サイン・ワインと呼ばれる太鼓の奏者が自由に太鼓を叩き、踊り手は太鼓に負けないように、そのリズムに遅れないように踊ります。「自由」とはいつても、その場のアドリブで踊っているわけではなく、いくつかの基本的なパターンに基づいて踊ります。

8. 舞踊「エイジンウウ」(きれいな水)

舞踊:ス・ザ・ザ・キン・テ・モン・イ・イ・カイン

ミャンマーで4月に行われる水かけ祭の踊りです。伝統的な踊りのパターンに基づいて、ス・ザ・ザが創作したオリジナルの振り付けによるものです。

韓国 伝統打楽サムルリ

出演者紹介

アンデミ ノルムセ



アンデミとは、朝鮮半島の伝統打楽器「チャンゴ」の隠語で、ノルムセは、演奏の腕前がよい、体裁がよい、リズムを上手に叩くという意味が込められている。アンデミ ノルムセは、韓国伝統打楽「サムルリ」の創始者として名高い金徳洙(キム ドクス) に師事し、在日韓国人の後継者として日本で活躍中のサムルリ演奏者、康明洙(カン ミヨンス)を中心に2004年に創設されたグループで、サムルリ演奏や普及活動を活発に行っている。

サムルリ演奏のほかにも、チャンゴの講習会や教育機関での音楽鑑賞会をはじめ、普及活動や次世代の育成にも力を注ぎ、国際交流の架け橋として、幅広く活動している。メンバーは朝鮮半島の管楽器、弦楽器等の演奏のほか、日本の神楽太鼓や和太鼓奏者としても活躍中で、サムルリのリズムを神楽や邦楽の演奏にも取り入れて音楽の幅を広め、伝統音楽の真髄を揺るがすことなく、未来に向けて発信していくことを目指している。

<http://andemi-kang.com>

出演者



カン ミヨンス
康 明洙:ケンガリ



イヤンジャ
李 葉子:チャンゴ



イジェホ
李 在浩:チャンゴ



ハ ミヨンス
河 明樹:チン



イシザカ ガイン
石坂 亥士:ブク

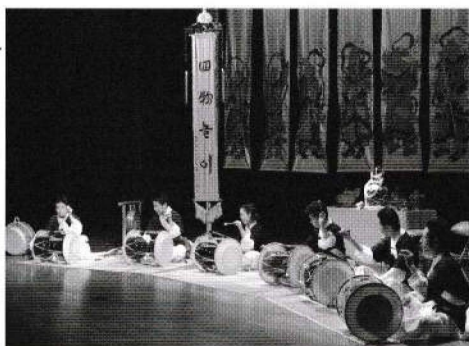
演目解説

サムルノリ

サムルノリとは、四種類の打楽器、ケンガリ(小金)・チン(銅鑼)・チャンゴ(長鼓)・プク(太鼓)を使用し、韓国の各地方に伝わる伝統的なプムル(風物)農楽のリズムをまとめ、再構築した打楽器アンサンブルです。「サムル」は「四物」、「ノリ」は遊ぶ、演戯する、PLAYを意味し、四種の楽器で演奏・演戯する事を意味します。その独特なリズムやスピードが多くの聴衆を魅了し、世界各地で親しまれています。

1. 「삼도 설장고」(サムド ソルチャンゴ)

サムド(三道)は京畿・忠清道、湖南(全羅道)、嶺南(慶尚道)地方を表し、ソルチャンゴは、プムルノリ(風物遊戯)の中で一番腕前の良いチャンゴ奏者が、一人で演奏することを指します。サムド ソルチャンゴは、三道地方に伝わるチャンゴのリズムを体系的に整理し、座って演奏するアンジュンバン・サンジョ(散調)のようなスタイルで作られています。チャンゴ演奏では演奏者が一つのリズムの中で呼吸を合わせ、時には各自の変奏を通してリズムの多様性と魅力を引き出しながら、音楽を完成していきます。



2. 「삼도 사물놀이」(サムド サムルノリ)

サムルノリは4種類の打楽器、ケンガリ(小金)、チン(銅鑼)、チャンゴ(杖鼓)、プク(鼓)で構成されています。サムド サムルノリも三道地方の代表的なリズムを集めて演奏するもので、4種類の楽器が噴出する倍音がどのように連結されているかによって、演奏の感じが違ってきます。また、各楽器は自然界の音、ケンガリは「雷」、チンは「風」、チャンゴは「雨」、プクは「雲」の音を表し、金属製の楽器は天の神、獣皮を用いた楽器は地の神の音を表しています。



3. 「판굿」(パンクツ)

「パン」とは開かれている場所・遊び場・公演場を意味し、「クツ」は神に対する巫女の歌舞を意味する言葉、または集まる、集めるといった意味をもちます。すなわち、「パンクツ」とは、開放された場に集まり、決められたリズムや踊りを組み合わせることによって、演奏者が自身のスキルや妙技を披露する演目です。「パンクツ」では、サンセ(ケンガリ奏者)はプボ(帽子の羽飾り)を、チベ(チン、チャンゴ、プク奏者)はサンモ(紙テープの付いた帽子)をかぶって楽器を演奏しながら踊ります。このように「パンクツ」は、世界でも例を見ない複合的ジャンルの音楽であり、パフォーマンスです。





 **大東文化大学**
DAITO BUNKA UNIVERSITY

国際関係学部

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
TEL 0493-31-1513
FAX 0493-31-1512
HPアドレス <http://www.daito.ac.jp/>